

来への展望

鬼北町長
兵頭 誠亀

明けましておめでとうございます。
ます。

昨年は、私にとって人生の大きな分岐点となった年でした。現在も、日々の重責を感じながら、仕事に取り組んでいます。

旧年中は、行政各般にわたり、ご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。特に、愛媛県の威信をかけた「愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会」では、多くの町民の方々の協力のおかげで、成功裏に終了し、本当に安堵しているところです。ボランティアとして支えていただいた大勢の方々の力の大きさに、改めて驚いたと同時に、感謝の気持ちでいっぱいであります。

一方で、鬼北町独自の民泊においても、愛媛県から高い評価をいただきました。国体を町民自らのイベントとして考え、行動していただいた方が大勢おられました。まさしく、「住民主導」でありました。町内にある52の集落を回り始めた頃、「そんなことができるのか」と、非難されたこともありましたが、くじけず、スタッフとともに信じた道を歩んできて良かったと感じています。

行政として、この国体効果・成果をハード事業のように数値

化して推し量ることは、困難であります。しかし、国体を一過性のスポーツイベントとして評価する以外に、大きな宝物をいただいたことは間違いありません。県内外に町民の皆さんの底力を情報発信できたこと、これが、私が考える「鬼のまちづくりソフト事業」であります。

新年を迎え、私は初めての年度予算編成作業を始めています。公約をしました事業について、進捗状況を申し上げます。

まず、交通弱者対策ですが、今年度、いくつかの集落に出向き、実態調査を始めています。このいた、たい意見を参考に、来年度、「地域公共交通網形成計画」を策定し、なるべく早く試験運用したいと考えています。

次に、鳥獣害対策ですが、すでに本年度において、電気柵設置補助支援の補助対象項目を緩和いたしました。比較的小規模農家の方にも、活用しやすく、農業収入確保だけでなく、農作物を作る喜びを確保することも必要であると考えています。来年度は、サル被害が多い場所に、遠隔操作できるサル大型捕獲柵を設置することとし、集落内の土地が使用できる用途がつく地域から予算化したいと考えています。

子育て支援として、保育料の軽減措置については、既に変更算定を終了し、本年1月から実施することとしています。

北宇和病院の存続維持確保については、厳しい経営状況であることは否めませんが、鬼北地域医療の中核として続けていくこととしています。

鬼のまちづくりに関しては、国体を通して再構築しつつある地域コミュニティを活用した施策を検討したいと考えています。財源としては、増加傾向にある町外からの「ふるさと納税」を活用させていた、たく予定ですが、町内外の鬼北町応援団の方々の想いを施策に活用することは、幅広い情報発信として位置づけられており、特に重要であると考えています。

一方、町内最大の資源である「森林」を活用した施策の展開も検討しており、当町の現状に対応し、かつ、2次効果、付加価値が期待できる事業を模索していきたいと考えています。

結びに、本年が皆様にとりまして飛躍の年となり、輝かしい1年になりますよう、心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。